

## 「障がい者と向き合う心」

高松市立香川第一中学校 1年 三好 春菜 さん

「車いす」皆さんはこの言葉を聞いた時、どのようなことをイメージしますか？大変そう、かわいそう、かっこ悪いですか？

私にとって車いすは生活の一部であり、とても大切な物です。なぜなら、私の父は車いすにのっているからです。生まれつきの病気ではなく、車の事故でせきずいを損傷し、足が動かなくなったそうです。だから私は父が歩いている所を見たことがありません。でも、歩けない以外は普通の優しい父です。ただ、最初からそう思えたのではありません。

私は幼い頃、父のことを心のどこかで、「かっこ悪い」と思っていました。家族で出かけるとじろじろ見られたり、ひそひそ話をされたり、邪魔扱いをされたりすることもありました。私は父の姿を友だちに見られたくないなあとも思っていました。

この間、母が昔の日記を見せてくれました。4歳の運動会の話でした。保育所の先生に、「親子ゲームは誰が出来ますか。」と聞かれました。母が、父にも他のお父さんと同じように参加してもらいたいと伝えると先生は、「お父さんと一緒にするのは春菜ちゃんの方がいいですよ。」と言いました。そして夕食時、母が、「晟矢とママチーム、春菜とパパチームでがんばろうね。」と言うと、私はしばらく黙って、その後ぼそっと、「ママがいい……。だってパパ、車いすのっとなるけん恥ずかしい。」と言ったそうです。日記には、いつかこんな日が来ると思っていたけれど、パパと春菜大丈夫かなと書かれていました。そして運動会前日、私は双子の兄に「私はパパとゲームするけん、晟矢はママとね。」と言ったそうです。そして運動会当日。緊張気味の父に「パパはおんぶできんから、おひざで抱っこしてね。」と、父と私は笑い合いながら参加したそうです。私はこの出来事を全然覚えていないけれど、あの時の私は、父をたくさん傷つけてしまっていたんだろうなと思いました。

障がい者と向き合うことは簡単なことではありません。我慢したり、あきらめたり、人の何倍も時間がかかることもあります。

でも、ラッキーと思うこともたくさんあります。困っていたら親切に声をかけてくれる人もいます。その思いやりの心にふれて、温かい気持ちになり、感謝することができます。

障がいは特別なものではありません。なぜなら、今、私は健康で不自由な所は一つもないけど明日、病気や事故にあうかもしれません。誰でも障がいをもつ可能性があるからです。私はそれに気付けたから父に対する恥ずかしいという思いがなくなったのだと思います。私は、障がい者も子どもも高齢者もすべての人が、のびのび安心して暮らせる社会になればいいなあと思っています。でも私、一人の力はとても小さいので、皆さんと一緒に、まずはここ香川町をもっと笑顔あふれる優しい街にしたいです。